

まんが de 発見

滋賀県立大学 やまだ りほ 山田梨穂さん

家庭の中の女性



※これがアンコンシャス・バイアスです!

あなたの地域も女性参画
考えてみませんか!?

詳細はコチラ

アドバイザー
派遣

連続講座
開催報告



広がる「地域における女性参画」の取組



令和7年度から「地域における女性の参画推進事業」が始まりました!
「アドバイザー派遣」「連続講座」「ともまち新聞」の3本立て。
すでに派遣先の自治会や講座参加者からは活発な意見をいただいています。
今年度の様子をご紹介しますので、皆様のご利用・ご参加お待ちしております!

アドバイザー派遣

女性参画の方法がわからない...と悩む自治会・地域づくり協議会にアドバイザーを派遣



自治会からはこんな意見・アイデアが出ました!

課題

自治会運営は男性がするのが当たり前という雰囲気がある。
女性の視点・意見が反映されていない。

アイデア

会議のスタイルを見直す。進め方・会議録などをシンプルにして、
初めての方にも、参加していない方にも分かりやすくする。
女性が1人でなく、数人で参加できるよう工夫する。など



参加者の声

- 地域住民で、女性の参画をじっくり考えることはなかった! 良い機会となった。
- 少子高齢化で人口はますます減っている。こういった話し合いをしながら、
これからの地域のことを話す重要性を改めて感じた。



女性参画を進めるためのアイデア出しの様子
(10月25日(土)相模町自治会)



女性参画に関する課題共有の様子
(11月30日(日)大浜町自治会)

連続講座

地域の身近なテーマで講座・ワークショップを開催



こんな意見・アイデアが出ました!

「地域防災」(課題)

日頃の地域の姿は、災害時の姿。女性を含め、しょうがい者、外国人住民等への配慮が足りない現状がある。

「地域づくり」(アイデア)

女性が感じる「関わりづらさの壁」を取り払うには当たり前(会議の時間・机の配置・役割)を見直そう!



参加者の声

- 防災も地域づくりも誰もが当事者、多様な視点が反映されることの重要性を改めて感じた。
- 次年度の役員を決めるとき、今回の意見を活用したい。
- ちょっとしたことから早速実践してみようと思う。



▲第1回講座見どころされる視点
女性参画で強化する地域防災力



▲第2回講座 関わりづらさの壁

ともまち新聞

女性参画でともにまちづくり
第4号

「地域力」×「女性力」＝無限大の未来

内閣府男女共同参画局
男女共同参画週間キャッチフレーズ(平成27年)

発行
長浜市
市民活躍課
☎(65)8711

地域の女性参画 ヒントを見つければ、
大学生が地域に飛び出しインタビュー!
地域のキラキラさん見いっつけた!
楽しむ自治会活動、育まれる地域のつながり

令和6年度神戸町自治会長 恩田 智子さん

文 滋賀県立大学
村居良夏さん

神戸町は、約20世帯ほどの
小さな町で、自治会では、地蔵
盆や、町内を流れる米川の掃除
といった活動をされています。
さらに、長浜曳山祭では3年に
1度、神戸町だけで曳山を出
されていることです。

近年、男性がいる世帯が少
なくなっていること、長浜曳山
祭の際は男性が忙しくなるこ
となどから、自治会運営の主
体が女性になつてきたことのこ
とで、しばらく女性の自治会長、
会計が続いているそうです。皆
さん、和気あいあい、楽しく自
治会活動をされているとのこ
とでした。

また、若い人が進学や就職の
ため、地元を離れていく傾向に
あり、まちづくりの担い手不足
も大きな課題だということです。
地域の誇りである長浜曳山祭
もユネスコ無形文化遺産に登
録され、注目される一方で、こ
れからどう運営・存続してい
くかが課題ともおっしゃって
いました。

インタビューを経て

インタビューの中で、印象的
だったのは、恩田さんが地域活
動に対して前向きで楽しそう
だったことです。恩田さんは、
男性が少なくなっていること
が積極的に参加するきっかけ
の一つになったようです。わか
らないことがあっても、サポー
トしてくれる人がいて、続けら
れているとのことでした。神戸
町では地域活動が「義務」とい
うより「地域のコミュニケーションの場」になつているように
感じました。



▲インタビューを受ける 恩田さん(左)

「ともまち新聞」の作成には
ジェンダーを学ぶ「滋賀県立大学京楽ゼミ」の皆さん
に参画いただいています。